

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇第10回塩ビフォーラムを開催

## ■随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（2）

ーヨルダン・ハシミテ王国ってどんな国（その2）ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇第10回塩ビフォーラムを開催

12月7日、第10回「塩ビフォーラム」を一般社団法人近畿化学協会との共催により開催しましたので概要をご紹介します。

今回は第10回の節目を迎えるとともに、今回をもって塩ビフォーラムを閉幕することとなったことから、長年に亘り塩ビの重合に関する研究に携われ日本の塩ビ産業の発展に多大な貢献をされてきました元大阪市立大学の圓藤紀代司教授に「PVCの過去・現在そして見果てぬ夢」を演題にお話を頂きました。

また、講演に先立ち圓藤先生の長年の塩ビ業界へのご功績に対し塩ビ工業・環境協会より感謝状が贈呈されました。



ここで、圓藤先生と塩ビ業界との関りについて少し紹介をさせていただきます。

「塩ビフォーラム」の前身は毎年12月に大阪で開催されていた「塩ビ討論会」ですが、「塩ビ討論会」の第1回会議は1950年（昭和25年）に「可塑剤討論会」として開催されました。戦後まもない日本の塩ビ産業の黎明期は軟質の塩ビ製品が中心だったことによります。ちなみに弊会の前身「塩化ビニール協会」の発足は1953年で、それよりも早い時期から開催されていたこととなります。その後「塩ビ討論会」に改名され2008年（第59回）まで開催されました。圓藤先生が「塩ビ討論会」に係り始められたのが1985年の第36回からで、1994年から2008年までの14年間は近畿化学協会「ビニル部会」の部会長として「塩ビ討論会」を盛り上げ塩ビ関連の研究を牽引頂きました。また、2009年からの「塩ビフォーラム」の時代も近畿化学協会/重合工学部会副部会長として10年間、開催のご支援ご指導を頂いており「塩ビ討論会」の時代も含め計33年間、戦後の約半分に当たる期間、塩ビ業界はお世話になりました。

上記のような経緯があり、今回は先生から以下の内容のお話を伺うこととなりました。

## 1. ビニル部会の歴史

2. 塩ビ工業の変遷
3. PVCの環境問題とリサイクル
4. 塩化ビニルの重合における進歩と挑戦
5. PVCの見果てぬ夢

4. において先生の研究内容とその成果、課題等について、5. において先生の塩ビ業界に寄せる下記のメッセージを頂きました。



新規構造ポリマーの開発には異常構造の解消、分子量制御、立体規則性、熱安定性、共重合性などの課題を克服する必要がある。研究を通じ各重合法によるそれぞれの特徴を把握し改良の可能性を探ってきた結果、プロセスまで含め新たなPVC開発の可能性のあることが確認できているが、実用化については未知数、残念ながらその機運には恵まれなかった。日本の重合研究は世界をリードしており新たな産業を創出できる

可能性がある。塩ビ業界の皆さんが機運を掴み日本の塩ビ産業が世界をリードされることを期待したい。

最後に「人生は人と人のめぐり合い、めぐり会うには努力・実力・運が、運を味方とするためには“心からの笑顔と感謝”、これまで塩ビ討論会、塩ビフォーラムで巡り合った皆さんには心より感謝しています」という言葉で講演を締めくくられました。

圓藤先生には厚く御礼申し上げます。先生の益々のご健勝とご活躍を祈念致すと共に今後も塩ビ業界との末永いお付き合いを願っております。

最後になりましたが、塩ビフォーラムは10年間、多くの皆様に支えられ開催をしてまいりましたが、諸事情により今回を持ちまして閉幕とさせて頂くこととなりました。今後は、近畿化学協会/重合工学部会の行事の中で活動をさせて頂く予定です。長い間、お付き合いを頂き大変有難うございました。

## ■ 随想

### ◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（2）

#### －ヨルダン・ハシミテ王国ってどんな国（その2）－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

一口にヨルダン人と言っても、もとはベドウィン族をはじめ、遊牧で生活していた人、シルクロードからシリアのパルミラに代表されるルートで交易を行っていた人など、多くの民族の接触の中で、この地に定住した人たち、さらに、パレスチナ難民から国籍を取得したり定住をしたり、人種を超えた姻戚関係が成り立っているため、アラブ人という括りはできませんが、人種を特定することは非常に困難です。

全般的に言えるのは、非常にのんびりしており、温和で、人懐こい人たちです。また、ビザンチン、ローマ時代から優れた職人が集まり、多くの非常に素晴らしい文化を开花させた地域でもあり、その技術が連綿と継承されているため、決して作業の速度は速くありませんが、手先が非常に器用な方が多いと言えます。

平均寿命は2016年の調査によると74.6歳（男性73.2歳 女性76.1歳）とアフリカ諸国に比べるとかなり長生きです。

ただ、首都アンマンだけでなく、他の街でも起伏が激しく、段差が多く、バリアフリーという概念も浸透していないので、高齢の方が家族などの支援なしで生活していくにはかなり大変です。

平均初産年齢は2012年の調査になりますが24.7歳。

女性一人当たりの出生率は2017年の調査速報で3.19人。

2017年の調査速報による死亡率は1,000人当たり3.4人です。

14歳未満の子どもは総人口の34.68%を占めていますが、25歳から54歳までの人も37.36%を占めており、年齢構成では2つのピークが見られます。

HIV（エイズ）の罹患率は2016年の調査によると1%以下で大きな問題にはなっていません。

言語はアラビア語です。

以前はイギリス保護領だったということもあり、お年寄りには英語の分かる方が多い気がしますが、感覚的には、一部の方を除き、日本以上に英語が通じにくい気がします。ツアーや、個人旅行の場合でも観光地のみを周るのであれば問題はないかもしれませんが、普通のお店で買い物、或いは地元の人が行くレストランなどで食事をしようとする、ある程度アラビア語が分かった方がいいかもしれません。

宗教は以下のようになっています。

イスラム教徒（スンニー派）が圧倒的で97.2%

キリスト教徒（ギリシャ正教、カソリック等）2.2%

バプテスト教徒0.4%

ヒンドゥー教徒0.1%

ユダヤ教徒0.1%以下（さすがに、ユダヤ教徒には住みにくい国かもしれません）

しかし、街の中心にギリシャ正教の教会とカソリックの教会が隣同士に建っており、その先はグランドモスク。

宗教的な対立はなく、見かけ上はミックスされています。

面白いのはホテル（アラビア語でファンドゥークと言います）。

全てのホテルを調べたわけではありませんが、個人の経験と、知り合いの話を総合すると、ヨルダン・ハシミテ王国全体で言えることですが、家族経営のホテルは、何故かキリスト教徒の家族が経営していることが多いようです。

もしかすると、イスラム教徒の家族が経営しているホテルには、トイレなど、設備的な関係で、外国人が泊らない（泊りにくい）ということがあるのかもしれませんが。

面積が日本の 1/4 程度の大きさで、ほとんど砂漠地帯なので街は北から南に、ほぼ縦に並んで点在しています。

このため、どの街もバスや乗合タクシーで 4 時間以内に行くことができます。

鉄道も、以前はシリアの首都、ダマスカスからヨルダン・ハシミテ王国を縦断し、サウジアラビアの聖地、メディナを繋ぐヒジャーズ鉄道が運航していました。

ところが、第一次世界大戦中、あるイギリス人に率いられたゲリラ部隊により完全に破壊、分断され、その後、一部を除き再建されることなく現在に至っています。

このゲリラ部隊を率いたイギリス人が「アラビアのロレンス」と呼ばれた「トーマス・エドワード・ロレンス」です。

残された路線のうち、アンマンーダマスカス間は再建され、シリア内戦が始まる 2011 年まで運行されていたそうです。

現在は、首都アンマンと郊外にある国際空港のそばまでの約 30 Km の区間、団体予約があるときのみ観光列車が運行されているそうです。

ちなみに、この観光列車の牽引には、ヒジャーズ鉄道建設当時から使われていたドイツ製の蒸気機関車に加え、1950 年代の終わりに日本から輸出された日本車両製造で作られた蒸気機関車も使われているそうです。

調べてみると、1960 年代、ヒジャーズ鉄道の再開計画がありそれに向けて輸出された蒸気機関車ようです。しかし、この再建計画も、1967 年に勃発した第三次中東戦争のため、実現することはなかったようです。

(続く)

次回は、(3) - 国王 - です。

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

12 月 6 日 (木) ~8 日 (土) に東京ビックサイトで、「エコプロ 2018~SDGs 時代の環境と社会、そして未来へ」が開催され、約 16 万人の来場者を迎え盛況の内に終了しました。今回の展示会では、最近海洋プラスチック問題が地球規模で課題になっていることから、プラスチックの代替素材や新たな環境技術の紹介や展示が話題を呼んでいました。それに対して、VEC/JPEC ブースでは、「PVC が持続可能な社会づくりに貢献」をコンセプトとして、省資源、耐久性・長寿命、リサイクル、省エネ・防災のコーナーを設けて、身近な PVC 製品を紹介して、PVC の特長と SDGs への貢献をアピールしました。3 日間で当ブースには 8,000 名を超える方々の来場があり、また、PVC に関するパンフレットを手にとって持ち帰っていただいた方が以前よりかなり増えたことが驚きで、プラスチックへの関心が高いことを実感しました。(UCH)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

---

---



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601    ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp>    ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---